

園芸タイムリー情報 《7月中・下旬版》

平成27年7月16日発行 第5号
【上川農業改良普及センター】
Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
HomePage
<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

全作物共通

- ①高温が続く時期なので、施設栽培では換気に努め、状況に応じ遮光ネット等を活用しましょう。
- ②長期どりの果菜類では着果負担が大きくなり、収量や品質が低下しやすくなっています。換気やかん水、追肥等の適切な管理に心がけましょう。
- ③ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、ヨトウムシ類の発生が増加しています。発生を確認したら早期防除に努めましょう。
- ④整枝、脇芽かき等の管理作業は晴天の日に行い、傷口からの病害侵入を防止しましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、幌加内町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、平成27年6月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用【農薬編】□■□■□■□ —適正な農薬使用は整理・整頓・散布時の確認から—

＜農薬残留事故の主な要因＞

- ① 適用外使用（無登録）
- ② 使用基準違反
(濃度、使用時期、回数)
- ③ 散布機・タンクの洗浄不足
- ④ 過去に使用した農薬の土壌残留等

※ 農薬は「保管～準備～使用～使用後」の各段階で、適切な管理を行いましょう。



農薬保管庫は整理整頓、農薬散布機は点検をきっちり

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害
 生理障害名

ハダニ類

発生状況

中発生

発生時期

5月下旬～



メロン(葉表)

すいか(葉裏)

発生の状況・要因

- ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。増殖すると葉全体が黄変枯死する。
- ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

<防除の一例>

●ピラニカEW

きゅうり	2,000～3,000倍	収穫前日まで	1回
すいか・メロン	2,000～3,000倍	収穫3日前まで	1回

●ダニトロンフロアブル

すいか・メロン	1,000～2,000倍	収穫前日まで	1回
きゅうり	2,000倍	収穫前日まで	1回

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害
 生理障害名

アブラムシ類

発生状況

中発生

発生時期

5月下旬～



すいか(葉表)

すいか(葉裏)

発生の状況・要因

- ・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚染が発生する。
- ・ハウス内は温度が高いので、露地よりも増殖が早い。
- ・本年は6月上旬まで気象が乾燥傾向で推移してきたので、発生量が多い傾向にある。

対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。
- ・すいか、メロンでミツバチを放飼しているほ場では、薬剤散布を控える。

〈防除の一例〉

●モスピラン顆粒水溶剤

すいか：	2,000～4,000倍	収穫3日前まで	3回以内
メロン：	8,000倍	収穫3日前まで	3回以内
きゅうり：	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内

●トレボン乳剤

きゅうり：	1,000倍	収穫前日まで	3回以内
メロン：	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内
すいか：	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

すいか

病虫害
 生理障害名

カブラヤガ
 (ヤガ類の幼虫)

発生状況

少発生

発生時期

6月中旬～
 7月下旬



発生の状況・要因

- 5月上旬からヤガ類の成虫が確認されており、幼虫による食害は6月中旬以降みられ、増加傾向にある。今後露地作型で注意が必要である。
- 果実の接地部付近を中心に、果皮を食害する。
- 食害を受けた果実は、著しく商品価値が低下する。
- 周囲に雑草が多いほ場で被害が多い傾向にある。

対策

- ほ場周辺での産卵を抑制するため、ほ場周囲の雑草を刈り取っておく。
- カブラヤガ幼虫は、日陰となる果実の接地部付近に潜んで食害するので、収穫20～15日前にマットを敷いて、日陰と接地面積を小さくする。

※防除については、普及センターまでお問い合わせください。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

きゅうり

病虫害
 生理障害名

褐斑病

発生状況

中発生

発生時期

6～10月



発生の状況・要因

- ・葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。今年の状況
- ・べと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる。
- ・生育適温28℃、高温多湿条件で発生する。
- ・ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことがあるほ場では特に注意が必要となる。
- ・本年は、6月上旬に発生後、湿度が高い条件が長く続いたことから、現在も発生が続いている状況である。

対策

- ・適正管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。
- ・昨年発生したほ場では、予防防除を行う。
- ・ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。



＜防除の一例＞

- セイビアーフロアブル20 1,000倍 収穫前日まで 3回以内
 - ジマンダイセン水和剤 600倍 収穫前日まで 3回以内
 - ゲッター水和剤 1,500倍 収穫前日まで 5回以内
 - プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 収穫前日まで 3回以内
- ※プロポーズ顆粒水和剤は、ダコニール1000と合わせて8回以内とする。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

園芸タイムリー情報
 ≪ 7 月中・下旬版 ≫

平成27年7月16日発行 第5号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

作物名	トマト類	
病虫害 生理障害名	 	
トマトサビダニ		
発生状況		
発生に注意		
発生時期		
7月中旬～	写真左：茶褐色化した茎 写真右上：ツヤのない果実	

発生の状況・要因

- ・ 茎葉や果実が茶褐色に変色し、ツヤが無く、下位葉から枯死している。
- ・ 体長約0.2mmと、非常に小さいため、肉眼では見えない。
- ・ 高温期に発生が多くなるため、今後注意が必要である。
- ・ 前年発生したほ場では特に注意が必要である。

対 策

- ・ 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。

＜防除の一例：トマト・ミニトマト登録＞

- マルハナバチを放飼している場合

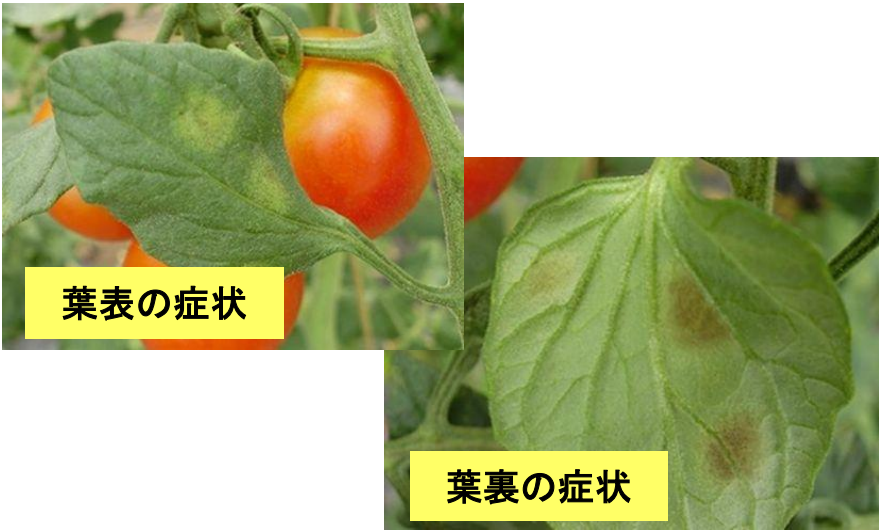
マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	1回以内
コロマイト乳剤	1,500倍	収穫前日まで	2回以内
- マルハナバチを放飼していない場合

コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
アフアーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

園芸タイムリー情報
 ≪ 7月中・下旬版 ≫

平成27年7月16日発行 第5号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

作物名	トマト類		
病虫害 生理障害名			
葉かび病			
発生状況			
中発生			
発生時期			
5月下旬～			

発生の状況・要因

- ・病斑は、はじめ下葉に現われ、しだいに上葉にひろがる。
- ・はじめ葉の表面の一部がわずかに黄変し、その裏側に灰白色の輪郭の不鮮明な病斑を生じ、灰白色のビロード状のカビを密生する。

対 策

- ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- ・適期に追肥を行い、草勢維持に努める。
- ・被害残渣は適切にほ場外へ搬出する。

＜防除の一例（トマト・ミニトマト共通）＞

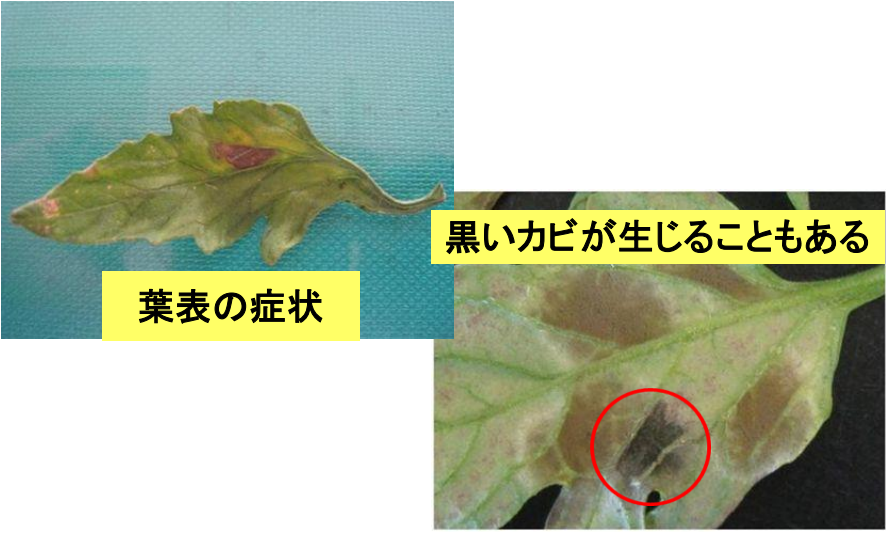
●トリフミン水和剤	3,000～5,000倍	収穫前日まで	5回以内
●アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
●ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内

※アフェットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回／年の使用に留める。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

園芸タイムリー情報
 ≪ 7月中・下旬版 ≫

平成27年7月16日発行 第5号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

作物名	トマト類	
病害虫 生理障害名		
すすかび病		
発生状況		
少発生		
発生時期		
6月上旬～		

黒いカビが生じることもある

葉表の症状

発生の状況・要因

- ・症状が葉かび病と非常によく似ている。
- ・気温が高くなってから見られるようになった。
- ・葉表が黄変し、徐々に茶色に枯れ込む。
- ・葉裏には灰色、黒色のカビが生じている。

対 策

- ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- ・被害葉は摘除し、残渣は適切にほ場外へ搬出する。

＜防除の一例（トマト・ミニトマト共通）＞

- トリフミン水和剤 3,000倍 収穫前日まで 5回以内
- アフエットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※アフエットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回/年の使用に留める。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

園芸タイムリー情報
 ≪7月中・下旬版≫

平成27年7月16日発行 第5号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

作物名	ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
ミカンキイロアザミウマ		
発生状況		
少～中		
発生時期		
6月下旬～		

発生の状況・要因

- ・下葉の葉表に吸汁痕が見られる。また、糞のようなものが付着している。
- ・葉裏に白色や薄い黄色のアザミウマが見られる。
- ・昨年、金粉症の果実が発生したほ場では定植直後から寄生している。

対策

- ・早期発見に努め、薬剤を発生初期に散布する。
 - ・ローテーション防除を心がける。
 - ・マルハナバチへの影響日数を考慮して薬剤を選択する。
- ＜防除の一例＞
- マルハナバチを放飼している場合

ウララDF	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内
 - マルハナバチを放飼していない場合（上記2剤を含む）

コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
----------	--------	--------	------

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

さやいんげん

病虫害
生理障害名

アザミウマ類

発生状況

少～中

発生時期

7月上旬～



発生の状況・要因

- 開花期に飛来したアザミウマ類が、子房に産卵することで莢に白ぶくれ症状が発生する。
- 高温乾燥条件で発生が多くなり、周辺雑草（特に黄色や白の花が咲くもの）が多いと被害は大きい。
- ヒラズハナアザミウマが多くみられている。

対策

- ほ場周辺の除草に努める。
- アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察し、発生が多くなってきたら、薬剤による防除を行う。

★ 防除については、JA、普及センターまで問い合わせください。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

こまつな・みずな・ターサイ・
 チンゲンサイ等のあぶらな科葉菜

病虫害
 生理障害名

コナガ

発生状況

少発生

発生時期

6月中旬～



写真左：防虫ネットの隙間
 写真右：コナガの成虫と幼虫

発生の状況・要因

- ・6月は低温・日照不足で推移していたので発生量は少なかったが、6月下旬頃から発生が目立ってきている。
- ・7月14日に南寄りの強い風が吹いたので、飛来成虫の増加が予想される。
 今後、気温の上昇と相まって被害が増大する可能性がある。

対策

- ・ほ場内外のあぶらな科雑草を適時除草する。
- ・防虫ネットの効果を高めるため、侵入口となる隙間ができないように設置状況を随時確認する。
- ・トンネルかけの場合は、雑草によりネットが持ち上がるため、除草も併せて実施する（写真左参照）。
- ・薬剤抵抗性が発達しているので、薬剤散布後に効果の確認を行い、効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。
- ・品目により薬剤の登録が違うので、ラベルを確認してから使用する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

花き全般

病害虫
生理障害名

灰色かび病

発生状況

中発生

発生時期

6月下旬～



発生の状況・要因

- 老化した部位や枯死した部位に胞子が着床し発病する。
- 多湿時や風通しの悪い環境で発生が多い。
- 本病は二次的発生が多い。

対策

●防除のポイント

- 防除は早朝に行い、薬液を早く乾かす。
- 採花は適期に行い、老化させない。
- 夜間でもハウスは開放する。また循環扇や加温機ダクト送風により通風性を良好にする。
- 薬剤耐性を防ぐためローテーション防除に努める。

<防除の一例>

- セ化 アーゴアブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内
- フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 発病初期 5回以内
- ポリベリン水和剤 1,000倍 発病初期 5回以内
- アフエットフロアブル 2,000倍 発病初期 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

きく

病虫害
 生理障害名

アブラムシ類

発生状況

多発生

発生時期

6月上旬～



発生の状況・要因

- ・発生は成長点付近に多く、密度が高いと成長点が湾曲する。
- ・成長点から下葉に寄生している場合は、葉裏に潜んでいることが多い。

対策

●防除のポイント

- ・成長点付近を重点的に薬剤散布を行う。
- ・発生密度が高い場合は、未展開葉にも潜んでいるため、防除間隔を短くする。
- ・ネオニコチノイド系薬剤（アドマイヤー、ダントツ、モスピラン等）では効果が低下している場合があるため、連用は避ける。

<防除の一例>

●トクチオン乳剤	1,000倍	発生初期	5回以内
●モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	発生初期	5回以内
●チェス顆粒水和剤	5,000倍	発生初期	4回以内
●コルト顆粒水和剤	4,000倍	発生初期	4回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。